

第 11 回（12/5） 現代社会学 1 : 「社会学」という学問 / 人間関係専攻について

1. 授業担当者自己紹介

氏名： 榎本 環（准教授）

メール・アドレス： tenomoto@komajo.ac.jp

研究室： 10-716

オフィス・アワー：月曜日 13:00～14:30、火曜日 10:40～12:10 Anytime welcome !

私の社会的キャリアについてちょっと一言

2. 改めて、大学での学び について

3. 授業スケジュール（予定）

第 11 回（12/05） 現代社会学 1 : 「社会学」という学問 / 人間関係専攻について

第 12 回（12/12） 現代社会学 2 : 消費文化と郊外社会

第 13 回（12/19） 現代社会学 3 : 人間関係と「自由」

第 14 回（1/09） 現代社会学 4 : 女性のキャリアと感情労働

第 15 回（1/16） 現代社会学 5 : 社会学の方法

4. 授業 Web サイトについて

【授業 Web】

URL: <http://t-enomoto.la.coocan.jp/komajo/>

授業レジュメ（PDF ファイル）を、「人間関係入門Ⅱ」のページに毎回、アップしておきます。

第 11 回～第 15 回 榎本担当回のみ

* 配布物のうち、文献からのコピー資料は保存ファイルには含まれません。ご了承を

5. 「人間関係入門Ⅱ」成績評価（確認）

平常点（受講取組みの積極性・課題提出）（60 %）、期末レポート（40 %）により評価する。

【平常点】60%

- 基本的には出席点

【期末レポート】 40%

- 3名の先生方の講義のうち、各自がとくに関心をもった先生のご講義に絞ってまとめる
- 1,200字程度（ポイントまとめ 800字 + 考察 400字）
- 第15回（1/16）授業時に提出

※ 提出期限を厳守してください cf. 社会生活における「期限」の重み

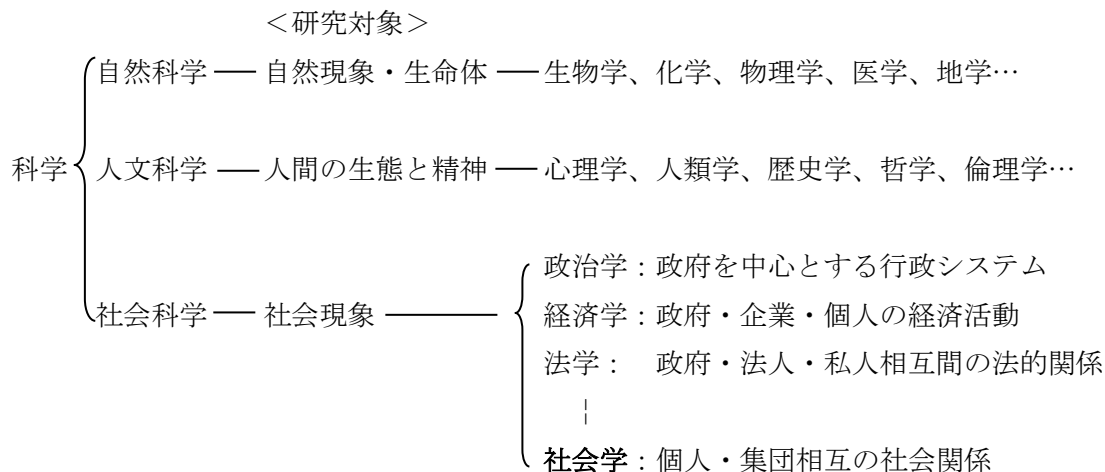
※ レポートが提出されない場合、レポート評点は0点となります

※ 学内内規により総得点（平常点+レポート評点）が59点以下の場合、成績は「不可」となります

※ GPA 制度について

6. 人間関係専攻について

7. 「社会学」について



- 社会学
- * 社会現象、人びとの行為（行動）や意識のあり方…、を
 - * 人と人との（諸個人および諸集団間の）「関係性」という捉え方に着目して分析

社会学的思考：自由に行為しているつもりの個人が、じつは本人も知らないところで不可視の社会的な規則に従っている…

「ふだん、私たちが日常的世界のなかで『当たり前』のように経験している現象が、なぜ、どのようなメカニズムによって社会的に形成されているのか」と問うこと

研究領域の例：人間関係、コミュニケーション、家族、教育、都市、メディア、国際関係、環境…

8. 参考：「現代社会学」について

- * 「現代社会学」という名称の社会学の分野があるわけではない
- * 大貫先生の社会学との異同について

9. 研究事例紹介：日常のなかの「小さな秩序」——社会的儀礼論

<E.ゴフマン「儀礼的無関心（civil indifference）」>

街かどで（静かな狭い路地、住宅街、学校の廊下で）見知らぬ人とすれちがうとき…

「そこで行われることは、相手をちらっと見ることは見るが、その時の表情は相手の存在を認識したことを（そして認識したことをはっきりと認めたことを）表す程度にとどめるのが普通である。そして次の瞬間にすぐに視線をそらし、相手に対して特別の好奇心や特別の意図がないことを示す。／…このような礼儀正しいふるまいをするときには、見る人の目が相手の目を捕らえるのは許されるが、『会釈』にまで発展するのは許されないのが普通である。／道ですれ違うふたりがこのような儀礼的無関心を装うときには、およそ8フィートの距離になるまでの間におたがいに相手をよく観察し、その間に道のどちら側を通るかを決め、それを身振りによって示す。そして、相手が通りすぎるときには、あたかもライトを下向きにするかのようにおたがいの視線をふせる。」（ゴフマン 1980: 94 頁）

「デパートのエレベーターのなか。狭い閉ざされた空間に見知らぬ人といっしょに閉じ込められながら、私たちはある決められた範囲内でふるまっている。『まなざし』についてだけいうならば、私たちはエレベーターのなかである方向を決まったように見る。つまり、階数を表示して移動するランプのほうを。もちろん、別の方向を見る人もいるが、あるひとつのもの（他人の顔）だけは見ないようにしているのは確かだ。」（奥村編 1997: 80 頁）

さまざまな集まりのなかで人びとが（何気なく）行っているふるまい

↑

われわれの日常のあたりまえのふるまいには「儀式」の要素が埋め込まれている
「個人を礼拝する儀式」を執行するためのルールによって枠づけられている

10. E. デュルケムの「儀礼」研究

cf. 「儀礼（ritual）」≡「儀式（ceremony）」

「連帯」（社会のまとまり）形成メカニズムへの研究関心

前近代社会の礼拝

対象（みんなが共同に礼拝する「聖なるもの」）＝ 神

「儀式」の3つの側面

① 消極的礼拝

「禁忌・タブー」

聖なるものであるトーテム（神）を汚してはならない、距離をおかねばならない

cf. オーストラリアの部族社会のトーテミズム研究

「トーテミズム」＝その部族に関係の深い動物や植物（トーテム）を礼拝する宗教

② 積極的礼拝

自分たちがトーテム（神）を大切に思っており、それと強く結ばれていることを確認するための儀式

「奉納」、「供犠」（いけにえを捧げる）

③ 修復的礼拝、「贖罪」

トーテム（神）を汚す者を罪人として処罰する儀式

↓

これらの儀式をみんなで行うことによって、トーテム（神）が「聖なるもの」であるという共同意識が支えられる → 社会に「連帯」が生まれる

近代社会の礼拝

対象（みんなが共同に礼拝する「聖なるもの」）＝「個人」、個人に備わる「人格」

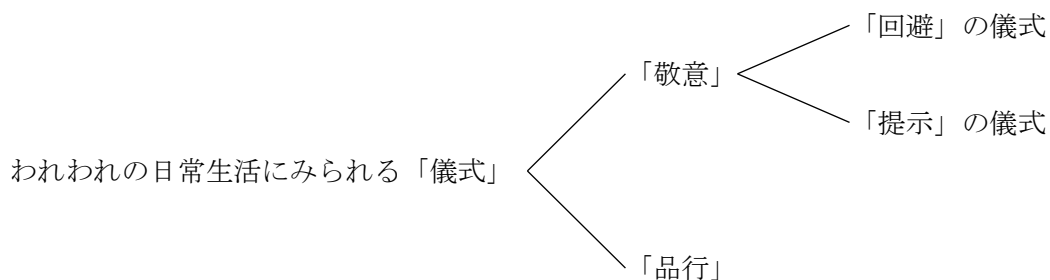
修復的礼拝、「贖罪」

「個人」の人格を侵害する者を罪人として処罰する儀式

e.g. 「犯罪」（殺人、盗み、迷惑行為…）に対する「刑罰」

- * なにが犯罪であるか、どれが重罪であるかは、あらかじめ決まっているものではなく、どれだけ社会の「共同意識」を傷つけるかによって決定される
- * 犯罪者を逮捕し、それを裁き、罰することは、その社会のなにが「聖なるもの」であったかを確認、それが大切であるという「共同意識」を活性化する役割（＝礼拝式の働き）を果たす
- * 社会にとって「犯罪」と「刑罰」は、必要で有用な儀式でさえある！

11. E. ゴフマンの「儀礼」論



- * われわれは「敬意」と「品行」を示しあう儀式を日常的に行っており、いつもその儀式から自由ではない
- * われわれの「集まり」をルールづけるのは「個人を礼拝する儀式」であり、われわれのふるまいはこの「儀式」に貫かれている
- * 人と人とが「社会」をつくるのは、こうした儀式を行うためである

「一般に、人は自分で自分に敬意を与えることは許されず、他人にそれを求めなければならない。それを他人から求めるためには、人は、自分に敬意を払ってくれる人々を捜し出す必要があることを知り、そして社会のほうは、そのおかげで、成員が相互行為と関係に入っていく一つの保証を得るのである。」
(ゴフマン 1986: 52 頁)

【まとめ】

- * 「儀式」の秩序を守る人びとは、その社会のメンバーとして受け入れられ、互いに「連帯」し合う（この秩序を守るために、「儀式」に従わない人を排除したり隔離したりもする）。
- * 「儀式」のルールは、ある人が社会のメンバーとして受け入れられるか拒絶されるかを定める基準である

12. 引用・参考文献

奥村隆編、1997、『社会学になにができるか』八千代出版、2 章
E.ゴフマン、広瀬英彦・安江孝司訳、1986、『儀礼としての相互行為——対面行動の社会学』法政大学出版局
E.デュルケム、古野清人訳、1941, 1942、『宗教生活の原初形態 上・下』岩波文庫
見田宗介、2006、『社会学入門 ——人間と社会の未来』岩波書店（岩波文庫）
若林幹夫、2007、『社会学入門一歩前』NTT 出版
C.W.ミルズ、鈴木広訳、1965、『社会学的想像力』紀伊國屋書店

13. 次回の予告

12 月 12 日 現代社会学 2 : 消費文化と郊外社会

以 上

【授業 HP】 <http://t-enomoto.la.coocan.jp/komajo/>

成分1:「敬意」

- 相手に対して自分の評価を伝えるための象徴的な活動
- 「あなたという個人を尊重していますよ」
- 「あなたの人格を聖なるものと思っていますよ」

「敬意」その1:「回避」の儀式

- 他人の「聖なる」人格に触れて汚さぬよう、相手の「自分の領域」から距離をとる

(例)

- 適切な距離をおいて立つ、座る
- 他人の身体にむやみに触らない
- 他人の顔をじっと見つめない

「敬意」その2:「提示」の儀式

- 自分が相手をどう評価しているのかをはっきりと示す

(例)

- あいさつをする(無視しない)
- 「髪型変えた？ ちょーカワイイ！」(賞賛)
- 「ハイ、これ草津のおみやげ」(プレゼントや気配り)

成分2:「品行」

- 自分が「ちゃんとした人」「他人から敬意を受けるに値する人間」であることを他者に示すふるまい

成分2:「品行」 具体例

適切な場面で適切な敬意を他人に示すことができる

- エチケットやマナーをわきまえている
- 感情的にならず穏やかな話し方ができる
- 敬語を正しく使える etc.

改めて、社会学的発想とは

- 自由に行為しているつもりの個人が、じつは本人も知らないところで不可視の社会的な規則に従っている...
- ふだん、私たちが日常的世界のなかで「当たり前」のように経験している現象が、なぜ、どのようなメカニズムによって社会的に形成されているのか。